

青ネギの高温対策技術

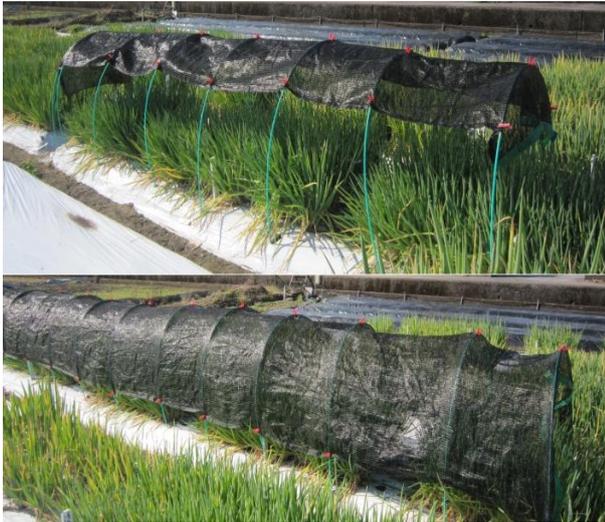


写真 遮光方法

上：部分遮光(遮光率 60%)、下：全遮光(遮光率 50%)

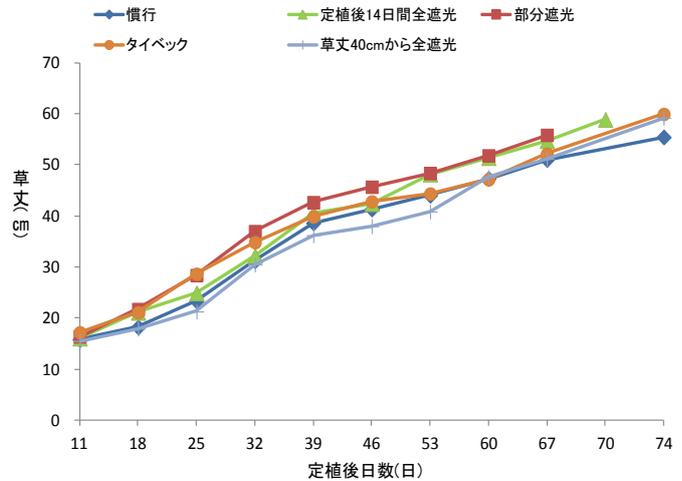


図1 高温対策における草丈の推移と収穫所要日数
注) 定植日は7月22日。草丈55cm以上で収穫。

表 収穫所要日数および品質・収量²⁾

試験区	収穫所要日数(日)	総重量(g/株)	分けつ(本/株)	葉色 ^{Y)} (SPAD値)	可販率 ^{X)} (%)	可販収量 ^{W)} (t/10a)
定植後14日間全遮光	70.0	282.5	9.1	55.3	63.8	2.4
草丈40cmから全遮光 ^{V)}	67.0	195.1	6.8	59.8	60.7	1.6
部分遮光 ^{U)}	67.0	249.9	7.5	59.2	63.3	2.1
タイベック ^{T)}	74.0	352.4	10.1	53.5	64.6	3.0
慣行	74.0	261.1	8.8	58.7	64.1	2.2

2) 栽植様式：うね幅150cm、株間20cm、条間20cm、4条植え、タイベック区以外はこかげマルチでマルチング。2反復(計16株)の平均値 Y) 1株あたり1本、最長葉で調査 MINOLTA SPAD-502による示度 X) 調整重/総重量×100 W) 出荷調整後の収量 V) 定植50日目から収穫まで遮光 U) 全期間遮光 T) タイベックでマルチング

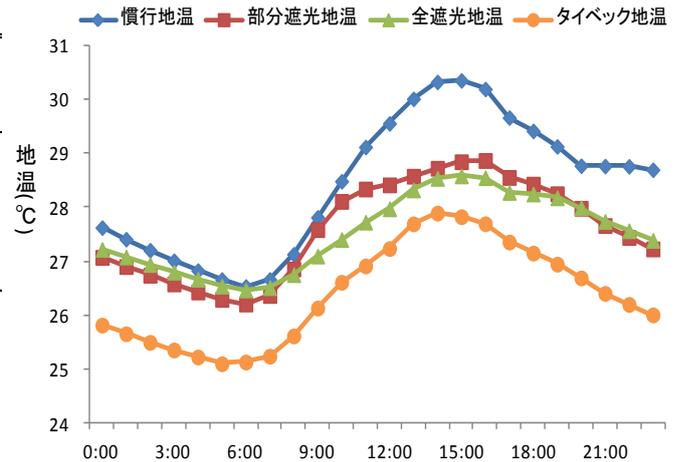


図2 日平均地温の推移

注) 数値は7月23日から8月5日の平均値

露地栽培の青ネギでは、夏期の高温による根張りの悪さや収穫時の葉先枯れによる収量や品質への影響が問題になっています。そこで、収量や品質を改善するために、遮光資材やマルチを使用した高温対策について検討を行っています。

試験には、県内在来系統(長系)を用い、7月22日に定植し、高温対策条件下での生育状況(草丈、分けつ等)および収量、品質の調査を行いました。

その結果、こかげマルチのみの慣行区と比較して、草丈40cmから全遮光区、部分遮光区および定植後14日間全遮光区で草丈の

伸長が速くなるものの、定植後14日間全遮光区以外は分けつが少なくなりました。また、収量は、地温の上昇が抑制されたタイベック(白色不織布)区では36%、定植後14日間全遮光区でも8%多くなりました(図1、図2、表)。

これらのことから、タイベックによるマルチングや定植後14日間全遮光が高温対策技術として有望であることが考えられました。

今後は、定植後の遮光期間や遮光率などを検討していく予定です。
(営農システム担当 和田卓巳 088-863-4918)